

志布志市庁舎等の在り方検討委員会（令和3年度第3回）

関係資料

資料名	ページ
志布志市庁舎等の在り方検討委員会（令和3年度第2回）会議の概要	1～12

志布志市庁舎等の在り方検討委員会（令和3年度第2回）
会議概要

開催日時	令和3年8月27日（金）13：30～15：30
開催場所	志布志市役所志布志庁舎4階会議室
出席委員	鯨坂徹委員長（鹿児島大学理工学研究科（工学系）教授） 片野田拓洋委員（鹿児島大学法文学部准教授） 畑山昭俊委員（志布志市校区公民館連絡協議会） 福田快文委員（株式会社 志布志まちづくり公社） 井沼正典委員（志布志市港湾振興協議会（志布志サイロ 株式会社代表取締役社長）） 田代雅美委員（志布志市PTA連絡協議会） 長岡幸博委員（公益財団法人 新大隅青年会議所） 有馬美津枝委員（社会福祉法人 志布志市社会福祉協議会） 崎田三奈委員（子育て世代） 田川貴雄委員（移住者）
欠席委員	吉國政信委員（志布志市認定農業者会） 下曾小川省一委員（特定非営利活動法人 三方良）
事務局	西 洋一（企画政策課長） 橋本淳二（企画政策課長補佐） 横峯博人（企画調整係長） 折田祐二（企画調整係主任主査） 草野頌平（企画調整係主事）
関係課長等	北野 保（総務課長） 折田孝幸（財務課長） 重山浩（有明支所長） 上原健太郎（松山支所長） 萩原政彦（総務課危機管理監） 原栄次（建設課都市政策推進室長）

会議の概要

1 開会

2 委員長挨拶

鯨坂徹委員長挨拶

3 議事

(1) 今後の庁舎の在り方を含めた新庁舎の建設について

事務局において、会議資料（配付資料11）の説明を行う。

<委員の意見>

委員長：前回の会議の意見の取りまとめと最近の庁舎の整備の事例について、説明がありましたが、皆様から御意見、御質問等がありましたらお願いいたします。

I 委員：庁舎を建設する場合においては、財源が合併特例債や基金になる。例えば、面積や規模の様々な条件をクリアしないと思うが、既存の建物を改修するときには、国の補助金等はないのか。様々な活用方法を勉強された方がいいと思う。

事務局：合併特例債については、合併した市町村の醸成を図る等のための起債であり、当初10年間の活用予定であったが、延長され、令和7年まで活用が可能である。138億5,160万円が起債可能額であるが、令和2年度末で113億2,950万円が起債額となっている。令和7年までしか活用できないので、現時点ではこれは使えないと考えている。公民館や防災の機能など様々な機能を持たせることにより使える起債もある。例えば、公民館機能であれば過疎債を使えるが、その面積に対応する部分が対象となると考えている。今の補助金では、社会資本整備総合交付金があるが補助率は低い。現実的には、基金と一般単独の起債となり、交付税措置があまりない起債しかない。これまでも御意見をいただいているように、庁舎建設や大規模改修に係る基金を積み立てることが、将来的な負担を少しでも減らす一助になると考えている。

委員長：交付税措置は、どのくらいあるのか。

事務局：合併特例債は充当率95%。理論上1億円の建物を建てる場合に、9,500万円を借り入れ、9,500万円のうち70%は交付税措置される。起債の用途によって、充当率50%しか借り入れできなくて、10%しか交付税措置されないものもある。過疎債は100%充当ができ、70%が交付税措置される。そういった有利な起債を活用できれば、市の負担が少なくなるということになる。その時代時代に有利な起債をしないと市の負担は大きくなる。20年後どうなるか分からないが、基金を積み立てておけば、将来負担は少なくなる。

委員長：その基金は、新築だけではなく、建物の改修とかにも使えるのか。

事務局：条例上、庁舎の建設と大規模改修を目的として位置付けすることにより、基金の設置は可能と考えている。現在、施設整備事業基金があり、施設の大規模改修、例えば体育館や学校施設などは、その基金を活用しているが、庁舎建設に特化した基金はないところである。

D委員：本市の人口ビジョンでは、30年後に人口は2万人くらいになる。40年後になると今の半分の規模になるという中で、非常に重要な指標だと思う。当然20年・30年後の世界は想像もつかないし、数年前までは新型コロナで国が大混乱することも想像していなかった。今後どうなるか分からないので、志布志市は成り立つのかということも考えておかないといけない。同じことが近隣の市町村にも言えると思う。志布志と同じような人口規模の市町村も30年・40年後どういう予測数字が出ているのかが気になる。

事務局：現在の本市と人口規模が同じような自治体の庁舎の整備事例として、庁舎の活用について、防災機能であったり、保健センターを併設したり、共有スペースを設置するといった様々な事例があることから、今後まちづくりの拠点として、庁舎にどのような機能が必要なのか参考として、お示しさせていただいたものである。

委員長：岩手県紫波町、盛岡市の南側にあって、道の駅のような施設や図書館、庁舎、バレーコートを造っている。バレーボール専用施設で合宿に人が来ている。宿泊施設も造って、結構にぎわってるような場所で、建築分野でも何かの賞をとっていて、割と有名な庁舎である。花巻空港と盛岡の間で割と交通の便も良い。宮城県亘理町は、東日本大震災で津波の被害を受けたところで、仙台市の直ぐ近くにある。まち全体を傘上げして、新しい住宅も建っている。仙台空港にも近いので、割と地の利もある。

D委員：亘理町は、国から補助金があったということか。

事務局：財源に震災復興特別交付税と記載してある。

D委員：前回、今の設備を有効利用するという考え方と、新庁舎を造るという考え方があって、両方を考えるべきという話をしたが、一つ大事なことを忘れていた。この庁舎は鉄筋コンクリートだと思うが、委員長からも鉄筋コンクリートはメンテナンス次第で50年100年もつという話があった。鉄筋コンクリートは中の鉄筋が腐食していたらどうにもならない。ここは非常に塩害が厳しいところであるが、例えば、当社でも特に空調機器等に関しては防食機能のあるものを導入しているし、当然塗装も塩害を防ぐようにしている。それでも数年で痛んでくることもある。この庁舎の鉄筋は、大丈夫なのか。例えば、過去にテストをしたことはあるか。空調機器に関しては、大型の空調だと思うが塩害対策仕様のもが使われているのか、

耐用年数は何年なのか。

事務局：志布志庁舎に関しては、耐震診断を行い、構造的には十分耐震性能があるという判断をいただいている。空調設備に関しては、港の近くということで対抗性の強い耐塩仕様になっている。耐用年数については、資料を持ち合わせていない。

委員長：一般的に外から見てクラックが入って、鉄錆が出てくると鉄筋が錆びているという症状になる。ひびがなければ基本的には鉄筋コンクリートの中は錆びてないという考え方でいいと思う。錆びるには水分がいる。クラックができる理由は水が入って鉄筋が太り、中から割れる。それが鉄筋コンクリート造の寿命になる。

D委員：そういう意味においては、この建物に関しては一応大丈夫だと。

委員長：外から見ても傷んでいる感じはないと思う。空調設備は大体はもって30年で、30年経ったら全面リフォームをした方が良くと思う。

D委員：配管関係には、かなりの経費が要ると思う。30年して換える必要があるのはおそらく室外機とか室内機で、配管をそのまま利用できれば、コスト的には安くできるのではないかと思うので、その辺も併せて有効利用する可能性も十分踏まえた方がいいと考える。確かに配管工事にはコスト的には高いが、30年で駄目になるか否かは、また別の話という気がする。

委員長：別の質問でもいいですし、何か御意見いただければと思います。

C委員：質問ですが、紫波町の事業手法にPFIと書いてあるが、具体的な方法は。民間のお金や力を借りてということだと思うが。

事務局：具体的な手法までは確認していないが、現在、市ではPFI方式で公営住宅を整備している。地域優良賃貸住宅の建設を民間企業と組み、民間企業が一括で業者に発注をかけるというやり方を行っている。そして、30年間の長期的な規模で民間企業が管理して、それに対する対価として市が支払うという形のPFI方式である。住宅の分は家賃収入を市が貰って、それを民間企業に支払っていく。

委員長：民間企業で造って、家賃で返していく形になると思う。PFIでやるといいのは、公共建築は維持管理費がほとんどないが、PFIですると民間協定を超えた部分を維持管理で常にメンテナンスするので、建物が良好に保たれる。この前まちが移ってしまうと、空洞化するという意見がありましたし、まちづくりの観点でも結構ですので、御意見ないですか。

D委員：まちが空洞化するっていう議論ですが、現在の本庁の周りの商店街を見たときに、例えば、ここに本庁があり続けたとして、どれだけここでお店が出てくるのかを考えたときに、その可能性は極めて小さいと思う。現在、繁盛している店は一部しかない。この周りの商店街の皆さんの世代

を考えたときに、おそらく、何代にもわたってここで商売をしているって
いう人達がどれだけいるのかと考えると、この周りに関しては、極めて疑
問だと思っていて、繁栄する可能性は小さいと思う。ただし、大慈寺、宝
満寺とか、この周りの重要な歴史的な価値を持つと思われるものは、本当
に大事なので、綺麗なまちにする必要があると思う。そこには財源を使っ
て、維持すべきだと思う。まちの経済の中心は、西の方に移っているし、
人口も多分、ほかの方に移っている。行政機能は消防署も上に移っている
し、あとは警察署だけが残っている。そういうことを考えた場合に、まち
づくりのために役所がその中心にあれば理想的と思うが、別の次元にある
のかなっていう気がする。従って、新規に庁舎を建てるとすると、色々な
場所に地の利があって、アクセスのいいインターチェンジからそう遠く離
れていないところに建設するのが望ましいということを経志布志道路、
志布志鹿屋道路を利用する度に感じている。

事務局：商店街の話があったので、J委員が商店街で移住交流センターを設
置しています。J委員から見た商店街の現状について参考にお話ししてい
ただければ。

J委員：商店街も本庁が志布志に移ってくるということで期待はしていた
が、思ったよりお客さんが増えていない。もちろん新型コロナの影響があ
る。楽観的に考えている方は少ない。一方で、4月にハンバーガー屋がで
きて、9月には焼肉屋ができるので、新しい世代もまちの中心に近いとこ
ろで出店される。市役所が近いからという訳ではないが、結果的に店が連
なっている場所に出店した方が商売として売上げは、見込めるとい意見
はある。

D委員：ぜひ、頑張っていたきたいと思います。

委員長：郊外にあるのはチェーン店が多い。大規模な投資をした大きなスー
パーとか。

J委員：国道沿いに大型店が多く、商店街は個人事業の方が多い。

委員長：地元経済の視点では、郊外で買い物しても、鹿児島市とか東京にお
金が流れていくが、ここで飲食とか物を買えば、地域でお金が回ることにな
る。基本的にはその対策をした方がいいと思う。多くの国でまちが空洞
化して、日本は大規模店舗法のが基準が緩くなって、なんでも建てられる
ようになってしまった。国によっては商店街にお客さんを誘導するような
法制度があって、街中に人が歩くようなまちにする、それが今の大きな欧
米の流れになっている。車をどこかに止めて、商店街で買い物をするとい
う流れがあるが、日本は今それがあまり考えられていない状況で、それは
皆さんがこれから考えていくことなのかなと思う。

D委員：直接市の庁舎と関係ないが、夏井の海岸線は非常に綺麗で最大の観光資源の1つだと思うがドライブインの残骸があり、がっかりするような光景になっている。例えば、撤去するには何億円掛かるからといって放置していいのかと思う。財源があるうちにあれを撤去してきれいな形にしたら、ビジネスの可能性として広がるという気がする。この海はきれいで素晴らしいの一言に尽きると思うが、それを有効活用できていないと思う。整えて、色々やれば、外から人が来る要素があると思う。

事務局：ダグリ海水浴場周辺については、海の家や夏井荘跡地については、市で取得した。港湾商工課で観光振興計画の見直しを行っており、夏井周辺も含めて、今後の景観整備などの計画を策定する。

D委員：大隅半島は自然豊かで素晴らしいが、畑が広がっているところに人が来るのかっていうとそうではない。人がたくさん来る、若者が集まるのはああいうところだと思う。福岡に糸島というまちがあって、そこに九大も移転して来て、新しいレストランも出来ている。似た感じで、新型コロナが起きる前は海外からも人が多く来ている。2015年から福岡に3年間住んでいたんで、その辺の事情は分かっている。そういう意味においては、夏井は本当に可能性があると思うし、本当素晴らしい景観なので、その辺りを上手く利用して活性化できないかという気がする。

F委員：介護保険事業、高齢者の介護保険ですが、介護給付費も今積み立てられてるといふふうに聞いている。そう考えると高齢者が増加して、若者も減少して、高齢者の不便なことがもっと大きくなっていくと思う。交通の便でいくと福祉タクシーやチョイソコしぶしで高齢者が少しずつ外出の機会があるのかなと思う。今後、高齢者が増えれば増えるほど様々な支援策が必要になってくると思う。庁舎に多くの機能があれば、その周辺も含めて、高齢者がそこに行けば全てが賄えるような多くの機能があれば、高齢者も元気でいられて、介護給付費もそんなに上がらない。そういうことも出来るのかなと思う。高齢者が多くなるので、高齢者の視点で考えてみた。庁舎に多くの機能があるといいなと思う、

委員長：車の運転ができなくなるので、図書館があって、食事もできて、病院もあって、市役所に行けば全部その周りにあるということですね。

事務局：現在、市の最上位計画の総合振興計画の見直しをしている。その前段で3,000人の市民アンケートを実施した結果が先日上がってきた。今おっしゃるような一番の喫緊の課題として、移動手段の確保がニーズとして多くの意見があった。移動手段がない、公共交通が充実していない、病院や買い物に不便であるなど満足度が非常に低く、市民が考える重要度としては高く、その開きがニーズ度が高いと捉えている。このことに対して今

後全般的な部分を計画で示し、重点的に財源配分していく中で、ワンストップの拠点も今後考えていく必要があると思う。複合的な建物になればなるほど様々な補助事業や対応できる起債があり、多くの機能性を持たせた方が有利な活用が見込める。F委員の意見は非常に大切な視点だと思う。

委員長：前も話したが、ここから図書館に行くためにエレベーターか何かできないのか。ここに来れば図書館にも行けるし、市民会館にも行ける。その会議室も使えるし、津波のときの避難にも使える。造って誰も使わないと大変なことになるが。自転車を乗せるくらいの公共エレベーターはあるが、日本は割と少ない。あと、市民アンケートでまちの活性化については、意見がなかったのか。

事務局：中学生アンケートを実施したが、大型商業施設がないとか、買い物に不便であるとか子供たちの視点からの意見があった。市民アンケートの全般的な部分としては、空き家対策が充実していない、廃墟が多いというところでの空き家対策が課題という意見や商店街のにぎわいに対する満足度が低いとか、医療体制が充実していないとか意見があった。

委員長：この会は庁舎の在り方ですが、市民が意見を言ったりできる、まちづくりの委員会とかもあるのか。

事務局：まちづくり委員会というのはある。これは市で各種計画を策定するときに、通常パブリックコメントを実施するが、中々市民からの意見が集まらないので、3地区10人の委員がいますので、委員会に議題として上げて、そこで直接意見をいただくという組織はあるが、まち全体をみんなで考えていくような委員会ではない。今後、庁舎関係の構想が進む段階においては、当然そのような市民ワークショップなど、前回の会議の中でも市民の意見を十分に聞いて計画を進めるべきだという意見があったので、幅広い年齢の方から御意見をいただいた上で構想を考えていきたいと思う。

A委員：高齢者の交通手段については、そこに出かけて行くのか、1か所を集めるのかの考え方だと思う。災害から1年経っても復旧してない道路が結構ある。高齢者が住宅へ行くのに、道が悪く確保されていないことがある。道路をあきらめて、コンパクトシティじゃないが高齢者を庁舎の近くを集めるとかそういう判断をしなければいけない時代が来てると思う。これだけの道路ができてはいるが、そのあとが全然追いついていない。そういうところにまだ私たちの地域では多くの人住んでいる。そこに道路を整備できるかと言うとそうではない。草木が生い茂って、その多くが道路に覆いかぶさってきて段々通れなくなる。もうそういう時代が来ているということと、庁舎建設について一番大事なのは、耐用年数が一番少ない松山庁舎だと思う。松山庁舎をどのような感じで造っていくのか、そこに何が

あればみんなが利用しやすいのか。場所としてどうすればそこに人を呼びやすいのか。そういった松山庁舎をどうするのかという具体的な入り方についてというのが必要だと思う。本庁機能に対しては先ほどありましたが、有明庁舎は防災的にもいいし、庁舎の周りに広い敷地がある。3つある庁舎の中で公共施設用地とか一番周辺に抱えているのは有明で、そこを絶対に使わないといけないと思う。志布志は、鹿屋と同じ感じになっていくと思う。鹿屋市役所は前の駅近くでしたが、今はまち外れになっている。多分志布志もそういう地域の商店街のことを言いますが、どこか1か所が上があれば、必ずみなさん上に上がられると思う。全体的な施設管理、道路整備、地域の中でコンパクトシティを目指すのか、分散させるのか。そういった意味で一番必見の利は松山と思う。松山庁舎をどう造って、その周辺をどうするのか。そういう具体的な事案から取り組んで行かないといけない。例えば、ターゲットを何年にするのか、20年後にするのか、30年後にするのか、自分の想像できる範囲の中でないと問題解決が出来ない。そこを考えていけば、自然とそこからまちづくりと庁舎の在り方も見えてくると思う。基金を積み立て、あとは若い人で考えてもらいたい。

委員長：ありがとうございます。各支所の利用も考える必要がある。

事務局：庁舎に限らず、公共施設の今後の在り方をどうするかという個別施設計画を策定した。その中で今後は、松山地域で言えば、新橋地区が地域コミュニティ協議会を設立しているので、泰野・尾野見地区はそのような方向性で協議会が出来れば、それぞれの協議会の中で公民館機能から全ての機能をどうしていくかを、行政も方向性を持って、地域の声を聞きながらどうしていくのかを形成していければと考えている。松山の庁舎についても、松山地域に住んでいる方々がどう結び付けていくのか、複合化をやっていくのか、どのような機能を持たせるのか。そこに住んでいる人たちがある程度の方向性を示していただくということを考えている。

K委員：今後、新庁舎を建てるに当たって、人口規模は縮小していくと思う。今の人口規模に該当する庁舎の事例があったとして、人口減少に伴って、市役所の各課も様々な機能が縮小されていくと思う。そうなったときにその庁舎の中の使い方も縮小され、空きスペースになることも予想されるので、民間企業がそこをテナントとして借りられるように、今後を考えて庁舎建設に当たれば、人口減少などに対応していけると思う。様々な御意見があるように市役所に行けばどうにか賄えるっていう部分についても今後いい方向に持っていけるんじゃないかなと思う。

J委員：現庁舎を生かすことと新庁舎を建てることを議論されているが、現庁舎を生かす意味では、まちづくりとして折角この場にいるので、その方

向でも私も1テナントとしてやっていきたい。商店街なので、商店が1つあってもそこには出店しないと思うが、本庁が移転して、来る人も増えてきたし、それに付随してフェリーさんふらわあのクーポンを作ったり、大隅の観光DMOの未来会議が観光ルート開発を改めて見直す中で、その努力を引き続きやっていきたいと思う。一方で新庁舎っていう意味では、ミニマムな庁舎を建てる方が個人的にはいいと思う。その理由としては、K委員の方からありましたが、人口は減って、それに伴って職員数が減っていく。この2年はリスクだらけで、今更大きな敷地を用意して、人を集めても、感染症がなくなるかわからない。今はリモートワークが推進され、また、志布志市で言えばLINEや防災放送などで各個別に情報が行き渡る時代になっているので、市民からしたら足を運ぶよりも、役所に行かずとも、全て事が済む方がありがたいと思う。ごみ出しや公園整備とかにお金を使う方が市民としてはありがたいのかなと思う。

L委員：こういう役職をしているから会議に出るために役所に行くことがあるが、住民票とかを1年に1回取りに行くぐらいしか役所を利用することがない。F委員が言ったように多くの機能が出来たらいいなと思う。下の子は療育が必要な子だったが、保健師に相談できるような、子育てなども役所にすぐ相談できるような、すぐそこに療育センターみたいなのが近くにあればいいなと思う。有明からちょっと離れた夏井の近くまで通っていた。そういう施設が庁舎の中があれば、子育てをするのには本当に困ったことでもすぐに相談できると思う。複合施設を整備して人口が増えたまちとかあるのかなと思う、多分減っていくと思う。子供が3人いるが、そのうち2人は地元には残りたくないと言っているし、先ほど言われたアンケートでもこの志布志ってあまり魅力がないし、何でここに住んでいるのかっていうと、親が近くにいるから住んでいるだけなんですけど。子供たちに何の魅力があるのかって聞かれたら答えられない。

H委員：F委員の御意見と重なるが、新しい庁舎を造るに当たっては、子供たちが集まるような施設、機能を持たせるということで、地域の高齢者と一緒に遊べるし、地域の高齢者もそれによって、子供たちと一緒に過ごすことによって元気になるし、子供たちも地域の高齢者の知恵を学べて、すごくいい機会になるのかなって思う。

委員長：庁舎の周りに何かいろんなものがある方が便利がいい。

I委員：前回の意見の中にデジタルという言葉が出てきている。まさに、今回のワクチン接種の受付もスマホです。将来的には庁舎に行かなくても自宅で様々なことができるようになると思う。過去の10年より先の10年の方がよりスピーディーな時代になってくると思う。わざわざ足を使って庁舎

に来て、書類に書いてもらうという過去何十年続けてきたやり方で、これからは印鑑も要らない、証明書も要らない、様々なものが省かれていくと思う。新庁舎は慎重に考えて造るべき。ものすごく大きな財源が必要だが、それよりも意見があったようにこれから先は少子高齢化でそっちの方にお金が必要だと思う。年金などを受給される方が多くなって、税金を払う人が少なくなる。15歳から64歳までのいわゆる生産者その構成比が減少し、65歳以上の高齢者が増加する。志布志も統計によれば人口が半分になる。今後の庁舎の在り方、それから新庁舎に位置とか規模とか構造とか、こういうのは今我々が語っても将来どうなるものでもない。その時期になったら考える必要がある。差し当たって、この在り方検討委員会の考え方としては、今ある3つの庁舎をしっかりと利用して、お金が要らないような工夫をする。先ほどからあるように基金をしっかりと蓄えて、その準備をしていく必要がある。また、買い物難民については、今、志布志がトヨタカローラとタイアップして乗合い送迎サービスを実施している。志布志市街地だけだが、有明や松山に発展していくと利用者が増えると思う。だから、移動手段がなければ作る、それを利用してもらう。高齢者も元気があれば買い物に来る、どこでも行ける。そういうシステムを構築できればいいなと考える。まちづくりは絶対必要であり、志布志のまちはなくなることもない。コロナ禍の中、観光業、ホテルの方も今の時点で中々出来ないが、来年辺りどうなるか分からない。まだ影響があると思うが、神社とかそういったものがいっぱいある。そういうものをしっかりと保存して、人を呼べるまちにする。残すものは残す、造るものは造る。今の庁舎の在り方につきましては、あるものをしっかりと使っていく。

委員長：今あるものを使うといういい御意見だと思う。結局、まちには元々様々なものがあつたが、みんな出て行ったりして、まちが機能しなくなっているの、これに移すとなると、そこに全部新しく造ることになる。ここを使って、出ていったものをここに呼び戻してくれば、まちが機能する可能性はあるかもしれない。今後そういったことも考えればと思う。志布志には文化財もたくさんある。

C委員：先ほどの総合振興計画の改訂作業をされている中で、住民の方の意見を聞く機会があつたのか。会議じゃなくても、例えば公民館に行って地域の人と話をするとか。

事務局：今のところはしていない。

C委員：今までは、役所が何か施策を決めて、住民の方は行政サービスを受けるだけだった。最近、施策を決めるのも行政だけじゃなくて、地域で決めていこうみたいな流れになってきているというところもある。先ほど

コミュニティの話があったが、志布志の場合は合併をしているので、特に大事なことを決めるときに各地域の人の意見を丁寧に聞いていくという、手続的なところで大事なのかなと思う。その中で市として何が出来るかといったら、プラットフォームを整えるじゃないが、コミュニティ組織みたいなのをしっかり作るとか、そういったところの支援をまずはしないといけないのかなと思う。多分この市庁舎を今後どうするのかっていうのはいろんな意見があって市民の方全員の意見、全員の賛成を得つつ、何かが決まるということはおそらくないと思うが。なるべく、少なくとも反映できないにしても多くの人の意見を聞いて、みなさんの納得を得ながら、決めていくことはすごく大事だと思う。この委員会の中でもそれぞれの地域の方がいらっしゃると思うので、地域の人やコミュニティの人の話を聞くというプロセスが今後何かしらないといけない。どこかの段階でしないといけないのではないのかなと思う。

A委員：この在り方検討委員会を全体的に見て、私が一番思うのは、本来は志布志に本庁機能を持って来る以前にしっかりと話すべき問題があったと思う。いつの間にか移転し、有明庁舎の2階3階は空いている、何も使われてない。それらを含めて、意見を聞くやり方が本来そうあるべき姿だったと思う。それが無いから、結局絵が分からない議論になっている。これからそういう使わなくなった施設そういう理由も含めたところで幅広い意見を聞きながら、事を進めていくということが一番大事だと思う。庁舎だけではなく、先ほど施設を総合的にと言うが、それをしっかりと議論した上での庁舎だと思うので、全ての建物を1つのテーブルの上に乗せてしっかりと議論していった方がまちづくりとしても、経費的な問題があるかもしれないが、それが当たり前の進め方だと思う。

委員長：次回までに何かこういうこと知りたいとかよろしいか。

A委員：庁舎整備の事例を出していただいたが、この辺の産業構造というのを次回に教えていただければ。

委員長：曾於市は建替えを止めて、庁舎の耐震補強したのではないですか。

事務局：耐震補強もしているが、増改築する。

委員長：近隣の市町村をもう少し調べられるといいかも知れないですね。

事務局：財部支所と大隅支所が建替えを検討している。

委員長：本庁舎はどうなんですかね。人口規模が同じでみなさん悩んでいると思うが。

D委員：志布志や大隅近辺で同じような構造で、同じような問題を抱えているところが多分あると思う。そういうところとの連携や状況を見ながら考えていくことが必要だと思う。少し視点を広げて考えて、将来一緒になら

ないと志布志が存続できないかもしれない。それは避けて通れない話だと思う。

委員長：ほかに御意見なければ、本日の議事はこれで終了させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。御協力ありがとうございました。

4 その他

次回の開催は、令和3年11月5日（金）を予定

5 閉会